(4)「ドクターヘリによる長距離搬送の現状と課題」

旭川赤十字病院 救命救急センター長
(道北ドクターヘリ基地病院) 住田 臣造 氏

基地病院は上川盆地にあり、周囲は 1,000m～2,300mの山地に囲まれている。上川盆地･オホーツク海･日本海･十勝平野の気候、さらに山岳地帯の気候と厳しい条件の中で運航している。運航圏内の市町村との直線距離は、名寄 70 km、富良野 50 km、帯広 120 km、稚内 200 km、礼文 220 km、天売･焼尻 120 kmと長距離を飛ばなくてはならない。

平成 21 年 10 月に運航を開始し、6 年が経過したが、出動率は 70%前後を推移している。運航圏域内の総人口 80 万人中、上川管内に 50 万人いるので、出動先は管内が 65%と多く、宗谷管内 10%、留萌･北空知管内が各 8%、オホーツク 7%、圏外 2%となっている。未出動･キャンセルの理由は、天候 37%、重複要請 23%である。

長距離運航を行う上で重複要請が問題となるので、分析を行った。要請地域別の重複未出動率は、上川 2,331 件中 7%、留萌 328 件中 6.1%、宗谷 414 件中 6.0%、オホーツク 266 件中 6.0%、空知 291 件中 9.3%、圏外 88 件中 11.4%であった。地域別出動中の重複要請率は、上川 1,598 件中 6.9%、留萌 193 件中 16.1%、宗谷 250 件中 27.6%、オホーツク 166 件中 22.9%、空知 195 件中 6.7%、圏外 44 件中 34.1%と、遠くに出動している時の重複要請が多く、未出動となる。

出動できない場合、ほとんどは救急隊の陸送となるが、道央･道東ドクターヘリが出動できる際はお願いしたり、北海道防災航空室に消防防災ヘリを要請している。消防防災ヘリが飛ぶことができなければ、防災航空室から北海道警察ヘリ･札幌市消防ヘリ･自衛隊･海上保安庁に依頼してもらっている。これまでの 1,904 件の未出動に対し、他機関航空機の要請は 177 件(16.2%)である。主な地域別要請数は、上川 60 件、留萌 17 件、空知 25 件、宗谷 44 件、オホーツク 11 件となっている。要請先としては、上川管内は 60 件のうち道央ドクターヘリが 57 件と多いが、宗谷管内は 44 件中、消防防災ヘリ 24 件、札幌市消防ヘリ 4 件、自衛隊固定翼機 11 件、海上保安庁ヘリ 1 件、メディカルウイング 4 件である。道央ドクターヘリは他事案出動中や札幌の天候が悪いため出動できないことも多いが、メディカルウイングにはすべてに応需いただいた。他機関出動要請 177 件に対する出動率は 80%となっている。

北空知地域、富良野と留萌消防組合エリアは運航圏が重なっている道央ドクターヘリとの協力圏とし、道北ドクターヘリがファストコールを受けている。この地域の重複未出動は 155 件で、道央ドクターヘリに 53 件、他機関要請 1 件、残りは陸送している。

運航圏にある 4 つの離島の要請数と出動数は、利尻 50 件中 23 件、礼文 43 件中 30 件、天売 25 件中 20 件、焼尻 11 件中 7 件となっている。利尻の出動率が低いのは、利尻富士の影響で天候が悪く着陸できないことが多いからである。出動できない場合は、他機関の航空機に依頼している。

また、稚内市立病院の循環器の医師が不在となり、カテーテル治療等ができなくなったことから、出動が増えている。対応できない場合は他の機関に協力いただき、北海道中の総力を上げて道北の医療を支えてもらっている状況である。

他機関の航空機は札幌圏に集中して存在している。旭川空港は就航率が高く、離発着便数が少なく、除雪体制も整っている。北海道の真ん中である旭川空港をメディカルウイングの基地空港としても良いのではないかと考えている。